

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071901179		
法人名	社会福祉法人 大浦福祉会		
事業所名	グループホーム 愛の里 白寿荘 (Aユニット・Bユニット)		
所在地	〒826-0043 福岡県田川市大字奈良1534番地31 Tel 0947-45-2513		
自己評価作成日	令和 元 年08月29日	評価結果確定日	令和元年10月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和 元 年09月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居にあたって、認知症がある高齢者の方やご家族が考えることは、「どんなところだろう?」「どんな職員さんが働いているのだろうか?」というところが気になると思います。そのことに対し、清潔感があり・開放的な環境づくりに加え、入居者様やご家族に対し、温かい対応・誠実な対応をさせて頂き安心して頂ける信頼関係を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「愛の里 白寿荘」は、田川市郊外の自然豊かな環境の中にある定員18名のグループホームである。敷地内にデイサービスとちびっ子保育所があり、かまど、足湯、囲炉裏やカラオケの設備のある交流スペース「匠の里 じゅんべえ」で行う合同昼食会や中庭でのイベント等、利用者と子ども達、地域の方が集い、交流を深めている。畑の新鮮な野菜を使って職員が手作りする美味しい食事を提供し、施設長が自ら振舞うお楽しみメニューに舌鼓を打つことも利用者の大きな楽しみである。施設長と副施設長を柱として、真面目で優しい職員の、利用者の声なき声に心を傾け寄り添う誠実な介護サービスによって、入居年数が16年目を迎える利用者や退院後元気を取り戻し、状態が劇的に改善する利用者も多く、家族の信頼も厚い。職員の出来る部分を繋いで粘りチーム介護で、「ここに来て良かったね」と言われるようなホームを目指している「愛の里 白寿荘」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、地域密着型サービスの役割について、日頃から考えや思いを話し合い情報を共有しています	ホームが目指す介護のあり方、方向性を示した理念を見やすい場所に掲示し、職員が日常的に目にする事で理念の意義を理解している。常日頃から、施設長が職員に対してホームの方針や介護についての考え方を伝え、理念の共有を図り、利用者や家族に喜んでもらえる介護サービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設のデイサービスセンター・保育所の行事等を通し、入居者様が地域との交流や関わりが出来るよう協力し合っています また、地域の障害者施設の方々との交流を継続して、お互いに良い関わりが来ています	「匠の里じゅんべえ」で、併設デイサービスや保育所と合同で交流イベントを行っている。近隣の障がい者施設と相互協力関係を築き、障がい者雇用にも繋がっている。また、利用者の馴染みの床屋に通う等、地域との繋がりを大切にした支援に取り組んでいる。	敷地内保育所の園庭や、かまど、囲炉裏、足湯も楽しめる交流施設、「匠の里じゅんべえ」を活かした地域交流イベントを企画する等、地域の方が気軽に立ち寄れるホームを目指した取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や入居希望にいられたご家族には、入居にいたらずとも介護についての相談や関係施設や医療機関等の提示を行っています デイサービスセンターの認知症のあるご利用者の対応についても協力し合い包括支援センターの方に相談や報告等を行っています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部の方やデイサービスセンターの職員等、合同運営推進会議を行っておりますが活動予定・取り組んでいる内容等を報告し意見交換を行いサービスの質の向上に努めています	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し(併設デイサービスと年2回は合同で開催)、活動報告を行い、参加委員からは情報提供を受けている。身体拘束の適正化のための対策を検討する会議を兼ねており、資料を添付して説明を行っている。	外部からの参加者(地域代表、民生委員、地域の他グループホーム管理者、知見者、有識者等)を増やし、意見や情報提供を受け、地域交流やサービスの向上に繋げていく事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回、運営推進会議には、田川市地域包括支援センターの職員の方に出席して頂き、意見を頂いています。市の方にも日頃から連絡相談を行い、協力関係が築けるよう取り組んでいます	運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを伝え、情報交換しながら協力関係を築いている。併設デイサービスの開設から25年を迎え、行政窓口とは、気軽に相談できる関係にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化のための指針に基づいて定期的に、身体拘束について話し合いの場(拘束に対する考え・対応等の工夫・職員のメンタルケア)を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいます	身体拘束適正化委員会は運営推進会議の中で実施している。身体拘束に関しての職員研修は、定期的に行い、常に話し合いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、玄関は日中鍵を掛けずに開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を行い、事業所内での虐待が見過ごされることがないように日頃から、管理者・職員間での話し合いの場を設け、介護に対してストレスが溜まらないように、一人で抱え込むことがないような体制を整えています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、、日常生活自立支援事業や成年後見制度を具体的に活用する機会はありませんが運営推進会議にて、地域包括支援センターの職員の方等に制度について説明して頂く等、研修の機会を設け制度の内容を把握出来るよう努めています	運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員(社会福祉士)による勉強会を行ない、職員や参加者の理解に繋げている。現在、制度を活用している利用者はいないが、必要時には、制度に関する資料、パンフレットを用意し、関係機関と相談しながら、制度が活用できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者様・ご家族の意向や不安点をお聞きして分かりやすい言葉で一方的な説明にならないよう心掛けています		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族とお話しをする際、「困ったことはありませんか?」の気持ちで接するようにしています。些細な事項も報告・連絡・相談をするように取り決めており、話し合いの結果決まったことは、職員全員へ報告するよう取り組んでいます	職員は、日常生活の関わりの中で、利用者の意見や要望の把握に努めている。家族の面会が多く、職員は家族とのコミュニケーションに努め、「何か要望はないですか?」と声をかけて、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、それらをホームの運営や利用者の介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者～介護職員までの風通しを良くし、提案・報告・改善等が速やかに行われるよう日頃より信頼関係を気付き、立場に関わらず意見の反映が出来るよう心掛けている	毎日の申し送りの中で、細かな報告や意見交換等を行い、申し送りノートやメモの活用によって情報を共有している。また、何かあればショートミーティングをその都度開き、話し合っている。日頃から、施設長、副施設長がこまめに職員に声を掛け、個別に意見や思いを聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、個々により労働時間・労働内容が異なる場合がありますがそれぞれの立場でやりがいや向上心を持って働けるよう話し合いの場を持ち、また働きやすい環境になるよう職場改善、働き方改革に取り組んでいます		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢・資格や経験より人柄重視の選考を行っています。経験者・資格者・初心者・障害者の方が協力し合って働ける職場作りを実現するため、独自の業務チェックシートを作成したり話し合いの機会を設け、職員一人ひとりが活躍出来るように配慮しています	障がい者や高齢者、時短勤務、夜勤専門の勤務等、職員の事情を汲み取りながら勤務体制を整え、時間とゆとりと想いを持って介護できるチーム体制が出来ている。職員の人生も守っていくことを処遇改善の柱とし、職員が生き生きと働ける環境である。職員の採用は、人柄や介護に対する思いを優先している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症をお持ちの入居者だから「わからないであろう」「忘れていたろう」と言った考えではなく、誠実に対応して欲しいとの旨を日頃より伝え、人権教育・啓発活動に取り組んでいる	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で常に話し合い、利用者の身になって考えて動くことの周知徹底を図っている。職員は、利用者へ声掛けしながら、自己選択、自己決定に繋げ、利用者中心の介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外研修に加え、現場の介護する様子や職員の方と話しをすることを通じ、明確な目標を持って仕事に取り組めるような機会を設けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業所に入会し、定期的研修に参加したり、職員交換実習を行ったり、他の施設との連携を図っている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する際、出来るだけご入居者様・ご家族の要望や不安なことを聞き取る機会を設けていますまた、ご家族等が不安、質問等をしやすい状況を作るため訪問時等、短時間でも意見交換等が出来るよう配慮している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず要望や不安なことをしっかりと聞きし、またご家族にとって聞きづらいような点においても出来るだけ詳しくご説明し不安や疑問が残らないよう心掛けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階では、当施設で対応出来ること、出来ないことをしっかりとご説明するように心掛けています。他のサービス、在宅で生活するためのサービスも含めご説明して選択頂いております		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分が入居した時、どのような人達にまた、どのように過ごしたいかを考える機会を設け、人と人が支え合いお互いの人生が高められるような関係性でありたいと考えています		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当施設として、入居時にご家族とお話しする内容のひとつに入居者様の人生がより良いものになるよう、施設と家族が信頼し合い、「協力して支えて行きましょう」との旨をお伝えしています。また、入居者様とご家族が入居を機会に疎遠になるのではなく、より良い関係になるよう心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在の入居者様において、ご家族等が来荘しやすい雰囲気や言葉かけを行いました、以前のお友達やご近所さんも定期的に来て頂くようご家族にもお願いしています。また、可能な限りご家族等との外出の機会も作って頂けるようお願いしています	出来るだけホームに足を運んでもらう事を家族にお願いし、利用者と関係が途切れないよう配慮している。併設デイサービスから入居の方もおられ、友人を訪ねてデイサービスに出掛けている。家族の協力を得て、行きつけの理・美容院に出かけたり、自宅への外出、個別での外出にも取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者お一人おひとりの性格や心身の状態を把握し、「入居者様と職員」「入居者様と入居者様」が良い距離感で生活出来るように配慮をしています		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や在宅復帰が必要となった場合には、ご入居者様の状態、ご家族の意向を踏まえて速やかに希望する入院先、入所先、在宅でのサービスを含めて支援出来るよう努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に今までの暮らし方や趣味等を把握させて頂き、またご家族等の希望や意向を踏まえたうえで、出来るだけ入居前の生活スタイルが変わらないよう配慮している	職員は、ホームでの日常生活の中でのやり取りを通じて、利用者の意向の把握に努めている。意向を伝えることが困難な利用者については、家族に相談したり、職員間で話し合い、利用者の表情や仕草を観察しながら、利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの暮らし方や趣味等を把握させて頂き、またご家族等の希望や意向を踏まえたうえで、出来るだけ入居前の生活スタイルが変わらないよう配慮している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの心身の状態を把握し、出来ることは、なるべくやって頂き、出来ないことは、その都度支援しながら機能低下とならないよう洗濯たたみ、テーブル拭き、調理の下ごしらえ等何か役割を持って、生活をして頂けるよう心掛けています		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際、介護職員・ご入居者様・ご家族等の意見や要望等を取り入れながらより良い暮らしとなるよう作成に努めている	利用者や家族の意向を基に、担当者会議で職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を利用者の状態に応じて、半年から1年毎に作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行っているが、利用者の状態が変われば、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを記録し毎日、送りを行い職員間で情報を共有している。また、状態が変われば速やかに介護計画の見直しを行うようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の中には、心身の機能が低下している方も多いため、併設事業所にリハビリに行ったり、同世代の方との交流が出来る機会を作っています		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の情報コーナーや市政だより等を活用し、イベント等に参加出来、豊かなくらしを楽しむことが出来るように支援している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様及び、ご家族が希望する医療機関にて適切な医療が受けられるよう支援しています	利用者や家族の希望を優先し、入居前にかかっていた病院の受診支援を行い、遠方の場合は家族対応でお願いしている。家族から希望があれば、ホーム提携医を紹介している。病院受診は、利用者にとって大切な外出の機会でもあるので、出来るだけ受診を支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や併設施設の看護師等と日常において、気付いたことは、速やかに相談し、情報を共有したうえで場合によっては、適切な受診が必要な場合には、速やかに対応するよう連携を図っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時においては、病院の看護師等に現在の状態を確認及び情報提供を行い退院が予想される際には前もって現在の状態及び可能な限りの情報提供を頂き退院時に安全な日常生活が送れるよう支援しています		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期が予想される場合には、施設側の出来る支援、ご家族のご意向等を事前に十分に話し合う機会を設け、最善の選択が出来るよう必要な地域の関係者とも情報を共有して支援している	契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援と病院でしか出来ない支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化が進み、ホームでの生活が難しくなってきた場合は、主治医や家族と話し合い、利用者が、最善の場所で終末期を迎えられる介護方針について話し合い、十分なチーム支援が出来るような体制作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修をマニュアルに沿って定期的に行っている。また、そのような事態が起こらないよう事前に可能な限りの対応・処置等を行うように心掛ける		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時の対応について、研修を行い、マニュアルに沿った災害時の防災訓練を行っている	防災訓練を毎年2回、昼夜想定で実施している。火元を特定し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、避難場所の確認を行い、利用者を安全に避難誘導出来る体制を整えている。また、防火意識の徹底に取り組み、火元やコンセント等のチェックを行い、非常食や飲料水を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症をお持ちの入居者の方であっても可能な限り意思等の確認を行い、出来る限りその思いに沿ったうえで人格を尊重し、思いやりを持って接するよう、日頃から会議や研修で話し合っている	日々の支援の中で、利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしく暮らしてもらうためにはどうしたらいいのかを、申し送りの中で話し合い、常に声掛けを行いながら、本人の意思の確認に努めている。また、排泄や入浴の場面では、利用者の誇りや羞恥心に配慮した言葉かけや対応を心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が思いや希望を表すことが出来るよう、日頃から良好な人間関係を築き意思決定の困難な方には、選択肢を提示し希望を聞き取るようにしている。また、成功事例があれば職員間で情報を共有するように努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様は、その日によって状態や気分が平常と違う方もおられるため業務に取り掛かる前にまずその方の「顔・表情」を注視したうえで、後の業務や関わりをどのようなペースで行うべきかを考え行動するよう心掛けている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は、洋服を選択して頂いたり鏡で自分の姿を見て、時には口紅等を塗ったりと気分のリフレッシュを図っている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、テーブルを拭いたり、お箸を並べたり、食材の下ごしらえをして頂いている。また、旬の食材を取り入れ四季を感じながら食事出来るよう心掛けている	敷地内の畑で採れた季節の野菜を使って、職員が作る美味しい食事を提供している。併設の交流施設、「匠の里じゅんべえ」の大きな竈でご飯を炊いて昼食会を開いたり、施設長がお好み焼きを焼いて利用者へ振舞う等、「食」を楽しめる環境を整えている。また、利用者の状態に応じて野菜の下拵えや茶碗拭き等を職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を把握し、その日の状態に応じて刻み食やとろみ食等に変更しています。昼夜においても水分の摂取量を把握し職員間で情報を共有し必要量が摂れるよう努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状態に応じた口腔ケアが出来るように支援している。歯ブラシやコップに名前を記入して、同じ場所に置くなどの習慣を作り出来る方には、ご自身でケアが出来るよう見守りながら支援している		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に促しが必要な方や本人からの声掛けによって、その方々のペースで排泄が出来るよう工夫し、昼夜においても出来る限りトイレで排泄が出来るように支援している	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、排泄チェック表から、利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、タイミング良く声掛けや誘導を行っている。居室と居室の間にトイレを設置し、利用者が安全に安心してトイレで排泄出来る環境を整えている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムや排泄量を把握し、水分量や食事の内容等にも気を付け便秘等にならないよう働きかけを行っている。また、状態に応じて主治医にも相談をしいる		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は入浴日を決めているが夜間等の失禁等があった場合には入浴して頂き清潔保持に努めている。また、併設の大きなお風呂で入浴をし気分転換が図れる機会を設けている	入浴は、利用者の希望や体調に合わせて、時間をずらしたり、清拭や足浴に変更する等して、柔軟に対応している。基本的には週2回、風通しの良い明るい浴室での入浴を楽しみ、併設デイサービスの大きなお風呂に入るのも利用者の楽しみである。入浴を拒否する利用者には、時間を置いたり、職員を替えたりして対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の区別がつくような生活リズムとなるよう気を付けている。座っていて同じ体制にならないように個別に足を上げたりと配慮をしている。また、温度や湿度等にも気を配り快適な安眠や休息がとれるよう配慮している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の内容を把握し確実に服用出来るよう飲む際の名前の確認や口の中が残らないよう徹底している。また、服薬内容が変わった際は、職員全員へ報告するようにし状態の変化等があった場合には、速やかに主治医に相談をするよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの興味のあることや趣味を中心に楽しみを持って生活出来るよう支援し、意思疎通が難しい方においても外出等の機会を設け気分転換が図れるように支援します		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や状態に応じて希望に沿った外出支援を心掛けます。また、ご家族とも良好な関係を続ける意味においてもご家族との外出支援もお願いしています。また、遠出が出来ない方は、中庭や交流施設の足湯等でのリフレッシュの機会を設けています	重度化して外出が困難になっても、安心して戸外に出られるように、敷地内に足湯を作り、旅館風の交流スペースでイベントを楽しんだり、中庭の散策、畑の手入れ等、穏やかな時間を過ごせる環境を整えている。また、病院受診の帰りのドライブや買い物、花見に出かける等、利用者の気分転換に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はお預かり金として施設でお小遣いを管理しており、希望に応じて外出の際などにおやつや果物、衣服を購入出来るよう支援します		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状態に応じて、ご家族との電話をされる方や年賀状等でご家族との手紙のやり取りをされている方もおられます。今後も継続出来るよう支援していきます		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が落ちつて過ごせるように室温・テレビ等の音や職員が大きな声を出して驚かせないように配慮しています。季節感を感じる植物や花・掲示板等を工夫しています	ホームの中は、季節の花や観葉植物や飾り物等、隅々まで心配りが行き届き、笑顔溢れる共用空間である。窓の外からは保育所の子どもの元気な声が聞こえ、畑で育つ野菜を眺める事も利用者の楽しみの一つである。利用者にも少しでも居心地良く暮らしてもらえるように、清掃や環境整備に力を入れて取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも座れる場所を確保して、外の景色や運動場で遊ぶ園児達を眺めたりと気分転換を図っています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人・ご家族の希望に応じて使い慣れた物や好みの家具や小物をご使用出来るようにして居心地良く安心して暮らせる空間作りに努めています	利用者や家族と話し合い、馴染みの家具やテレビ、ラジオ、位牌や家族の写真等、大切な物を持ち込んでもらい、本人が安心して過ごせるよう配慮している。室内には利用者の笑顔の写真を飾り、家族にも日常の暮らしぶりが伝わっている。利用者の作品等を飾り、温かな雰囲気のある居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的な「お元気で長生きして欲しい」という思いから出来ること・わかることの機能が損なわれ無いように支援し、家具の配置やその方に合ったお部屋の場所にも配慮し、出来るだけ安全に自立した生活が送れるように工夫している		